

令和3年度山梨大学教育学部学校教育課程幼小発達教育コース
推薦入試入学者選抜試験問題

(表紙)

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があったら、すぐに用紙の種類と枚数を確認し、受験番号記入欄の全てに受験番号を記入して下さい。

表紙 …… 1枚

問題用紙 …… 1枚

答案用紙 …… 1枚

2. 試験終了後、全ての用紙を回収します。
3. 用紙が不足していたときや、印刷が不鮮明な場合には手を挙げて監督者に知らせて下さい。

この用紙（表紙）の裏面を「下書き用紙」として使用してかまいません。
下書きは採点には含めません。

受験番号	
------	--

幼小発達教育コース 推薦入試入学者選抜試験問題
(問題用紙)

次の文章を読んで、あとの【問】に答えなさい。

「凍ったペットボトルのジュースを5分間で溶かしてみよう」

遊びの会でのこと。だいたいの年齢ごとに分かれたチームに1本ずつ、凍ったペットボトルが渡された。「溶けた分だけ飲んでいいよ」と言われたのだから、燃えないわけがない。小学校高学年の女子チームは、厨房に飛んでいってお湯をもらってきた。さすがである。

さて4歳男児ケイゴ・ソウタ・アキラの3人組は、どう行動したと思いますか。

ケイゴ君はまずボトルを座布団の上に置いて「溶けますように」と祈った。次にソウタ君はそのボトルに片手でチョップ。「カタッ」と叫び、手では無理だと思ったのか、おもむろに壁にぶつけようとする。慌てて止め、「どこかにぶつけないなら建物のコンクリートの壁で試してみたら」と提案する。外に出た3人は順番に野球バットよろしくボトルで外壁をたたいたが、壁の上方にセミの抜け殻を発見して大騒ぎ。外壁たたきの目的は氷を壊すためではなく、セミの抜け殻を落とすためにと変化した。しばらくそうしていたが、抜け殻は落ちてこない。他のチームに知らせに行ったけれど、みんな氷を溶かすことに夢中で関心を示してもらえない。諦めたのか、自分たちの使命を思い出したのか、今度は洋服の下にボトルを抱えて走り回るというアイデアがアキラ君から出され実行する。これには「冷たくて気持ちいい」という発見がついてきた。それでしばらくは順番に首筋や肩をボトルでトントンとたたいて大騒ぎ。

ちょうどその時「あと1分です」の声が掛かった。再び彼らの目的は「氷を溶かすこと」に引き戻され、今度はただ走るより走りながら落とそうとケイゴ君。だったら投げ上げて地面に落とそうとソウタ君。アキラ君が投げ上げたボトルが自分に当たりそうになってまたまた大騒ぎ。このようにしてタイムアップまでの間に考えた作戦は10個にも及び、そのすべてが実行された。

結果は、当然のことだけれど、高学年チームが一番多く溶けていた。しかし作戦の数からいえば幼児チームが抜群に多かった。しかもそれなりの成果も上げ、紙コップの底に1センチずつくらいのジュースを、他チームに比べて少なかつたにもかかわらず、満足そうに飲みほした。

(出典：河邊貴子「子どもが遊ぶということ」『幼児の教育』※一部改変あり)

【問】

「効率の良い氷の溶かし方」を教えずに、あえて子どもたちに自由に考えさせることの意義とは何か。あなたの意見を、その理由も含めて500字以上800字以内で書きなさい。

受験番号

幼小発達教育コース 推薦入試入学者選抜試験問題
(答案用紙)

A large grid of dotted lines for writing answers, with a vertical scale on the right side ranging from 500 to 800.

受験番号	
------	--

計	
---	--